



# コミュニケーション能力の素地を育む外国語活動

平成23年度から始まる新しい学習指導要領で、小学校高学年の『外国語活動』が必須化されることになりました。これに先駆け、市内の小学校では今年度から5・6年生で外国語活動を開始。また、1～4年生でも英語活動や国際理解活動を取り入れており、全国でも注目される多久市の外国語活動の取り組みを紹介します。

## 5・6年生の外国語活動授業開始

文部科学省が示した小・中学校の新しい学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とこれらを活用する力の育成を目的に、国語、社会、算数（数学）、理科、外国語、体育等の授業時間を増やすことになっています。

中でも、小学校では『外国語活動』が新設。全国的なばらつきを統一化し、中学校との接続をスムーズにするため、5・6年生で年間35時間必須化されます。

## 1～4年生も英語に親しむ

移行期間となる平成21・22年度は、各学校の裁量で授業時数を決めて実施が可能となっています。そこで、市内の小学校では今年度、5年生から年間35時間の外国語活動の学習を始めました。

ただ、5・6年生でいきなり外国語活動を学ぶのではなく、系統立てた学習を進めようと多久市では、英語活動担当者会や教育委員会などでカリキュラムを作成。これに基づき、1～4年生でも英語

活動や国際理解活動の学習を行っています。

1・2年生の『英語活動』は、教科等外（教科、道徳、特別活動の枠外）で年間5時間、3・4年生の『国際理解活動』は総合的な学習の時間で年間10時間行います。これらの時間のほかにも、各学校の裁量で、朝や掃除、朝の会、帰りの会などにゲームや歌を流すなど楽しみを通して、日常的に外国語に触れる機会を多く設けるようにしています。

## 欠かせない存在のALTとJTT

これらの活動に欠かせないのがALT（外国語指導助手）やJTT（日本人の先生）の存在です。ALTの Myra Chan（マイラ・チャン）先生や Ross Telle（ロス・テレレ）先生だけでなく、市内在住の外国語に堪能なJTTの執行陽子先生に協力していただきながら、授業づくりを進めています。

## 授業研究会で指導方法も工夫

5月12日は『外国語活動授業研究会』を開き、北部小5年2組の授業を5・6年生担任教諭が参観。5月19日の『英語活動授業研究会』は、中部小1年1組の授業を1・2年生の担任教諭が参観。5月21

北部小5年2組で担任の田中涼子教諭が実践した外国語活動授業テーマは『ドレスアップ大作戦』。クラス全員の給が描かれた用紙を元に、班毎に作戦を立て、どれが誰の給かを当てる「5の2の〇〇さん、みっけ！」ゲームを展開。毎日身につけ、生活に欠かせない「衣装」について、英語表現やジェスチャーで自分の好みを伝えたり、友達の好みを聞いたりする活動を通して、友達と関わることの楽しさを味わい、身近な友達の新たな一面に気付かせる授業です。

児童は「今日の授業で友達が好きなのが分かって楽しかった」や「みんなでゲームしながらだと英語も好きになれそう」と話し、授業を楽しんでいました。



「Do you like ~?」▶ とたずねあう児童

日の『国際理解活動授業研究会』は、緑が丘小3年2組の授業を3・4年生の担任教諭が参観し、指導方法の研修を深めました。小学1～6年生を受け持つ教諭を対象にした授業研究会や、年度当初の実施は全国各地も初めての取り組みでした。

参観とあわせ、自国文化とともに色々な国の文化を理解させるための工夫や英語ノートの取り扱い方、担任教諭の発音上達に取り組む姿勢など

も研究され、各学校の授業に活かされます。研究会は、中学校英語担当教諭や小学校教務主任教諭も自主的に参加され、連携した体制がとられています。

このように多久市の小学校の先生は積極的な指導体制を組み、子どもたちが中学・高校などで外国語科の学習土台となる「コミュニケーション能力の素地」を育めるよう充実に図っています。

## 定例教育委員会のお知らせ

5月14日に教育委員会を開き、議題の「学校評議員・体育指導員の委嘱および多久市社会教育指導員設置規則の一部を改正する規則」について協議し、承認しました。

次回の定例教育委員会は、6月5日（金）13時30分から第3委員会室（市役所2階）で開催します。傍聴は自由です。

■問い合わせ  
教育委員会教育統括室（市役所4階） ☎75-3450